

---

# ハッピーハロウィン

津風

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハッピーハロウィン

### 【Nコード】

N61950

### 【作者名】

津風

### 【あらすじ】

連載中の「パッション・アイデンティティ」の番外編SS。ハロウィンに乗じて暴走する依紗のお話。

「お菓子くれなきゃ、暴行するぞっ」

軽いノリでお茶目っぽく言った依紗いさに、全員が視線を向ける。

「……え？」

美音が聞き返すと、依紗はもう一度言った。

「お菓子くれなきゃ、暴行するぞっ」

語尾に星マークが見えるくらい、軽いノリである。

「ああ、ハロウィン」

と、夕樹ゆいつきが言っていると、依紗がプラスチック製のジャックオランタンを模した入れ物を差し出してくる。

「そう、今日はハロウィンよ。だから、お菓子ちょうだい」

「お菓子って、用意してないわよ？」

と、りのが冷静に言い返す。

「急に言われても、困るよね」

「つつーか、暴行するな」

困り顔の夕樹と、呆れ顔の美音。

依紗は不満げな表情になって、ジャックオランタンを見つめた。

「えー、せっかくのハロウィンなのにー。コスプレし放題なのにー」

その様子に三人が溜め息をつく。普段は大人しくしている依紗だが、イベントには便乗したがる。

しかしながら、急にハロウィンだ、お菓子だと言われても困る。

「じゃあ、コンビニでも行く？」

と、りのが提案すると、依紗は言った。

「寒いから反対！ むしろ、コスプレ」

鞆からごそごと取り出されたのは、魔女の帽子や猫耳だった。

美音が引きつった笑みを浮かべ、依紗がにつこりと微笑む。

「さあ、覚悟なさい！ あなたは猫よ！」

「あ、ちょ、やめっ」

あつという間に猫耳を頭に装着させられる。すぐに外そうとする美音の手をしっかりと捕まえて、依紗は二人を見た。

「シャッターチャンス」

「え？ あ、ああ」

と、慌てて携帯電話のカメラを起動させる夕樹とりの。

「ぐっ、離せ、塚田！ お願いだから、恥ずかしっ……」

「恋人さんに見せたら、きっと喜ばれるよ」

「……ない、それはないっ！ だから離せって！」

カシャッ。

「撮れた？ あ、良い感じ」

と、夕樹の撮った写真を確認し、依紗は美音を解放した。

すぐに猫耳を外し、依紗から離れる美音。心なしか、怯えている。

「じゃあ次は……これ」

と、依紗がりのへ渡したのはカボチャのかぶり物だった。ジャックオランタンの形にくり抜かれた布製のそれを、すぽっと顔に被せる依紗。

「え？」

「あはははは、りのちゃん似合うー！ 今よ、シャッターチャンス！」

と、依紗が笑い転げた。

夕樹が再びその様子を写真に収めると、依紗は次に羽根を取り出した。

「藤堂くんは妖精さんね」

と、半透明できらきらしている羽根を夕樹に背負わせる。

「テラかわゆす！ シャッターチャンス！」

と、夕樹の携帯電話を奪い取り、すかさず撮る依紗。

「え、あ……」

突然のことに呆然としながらも、その写真を見て夕樹はまんざらでもないという顔をした。

「さあ、撮るが良いわ、わたしの真の姿を！」

と、依紗は魔女の帽子を被り、マントを羽織る。

かぶり物を取ったりのが、声を震わせながら言った。

「いーしゃ、いい加減にしないとぶち殺すわよ？」

「まあ、何のことかしら？ わたしは魔女よ、魔法が使えるのよ。カボチャのあなたとは大違い」

そして依紗は高笑いをしてみせる。

夕樹はすっかり妖精になりきって、次から次へと自分自身を写真に収めていた。どうやら、気に入ったらしい。

女子二人が馬鹿馬鹿しいことを言い合っているのを、美音はただ眺めていた。

「カボチャだって良いじゃない！ ハロウィンの主役でしょ！？」

「だから何だと言うの？ 大人しくしないと、魔法で消しちゃうわよ？」

まったく、本当に馬鹿馬鹿しい。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6195o/>

---

ハッピーハロウィン

2010年10月31日18時49分発行